

# 復習シート 第二学年 国語



組	番号	名前
<b>模範解答</b>		

【品詞の分類・活用形・文節に関する問題】  
 1 次の各問いに答えなさい。

「行き」は「動詞・五段活用」の「連用形」です。「静かだ」は「形容動詞」、「来る」は「動詞・力行変格活用」の「終止形」です。

1 (1) 次の [ ] の文の [ ] 線部と〈活用の種類〉と〈活用形〉が同じ動詞を、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。 **レベル8～10**

- ア 質問に答えない。  
 ウ 遠くから友達が来る。  
 イ 図書館の中は静かでした。  
 エ 先生に理由を話した。

**エ**

(2) 次の文を文節に区切ると、いくつの文節になりますか。あとのア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。 **レベル11・12**

ア 中庭の 花だんに きれいな バラの 花が たくさん 咲いて いる。  
 イ 文節の切れ目に「ネ」をはさんでみましょう。

**ウ**

2 【同音異義語の中から文脈に合うものを選択する問題】 **レベル8～10**  
 次の文の [ ] 線部のカタカナを漢字で書く場合、正しいものを ( ) の中からそれぞれ一つ選び、記号に丸を付けなさい。

- (1) 会場を イドウ する。 (ア 異動) **イ** 移動 (ウ 異同)  
 (2) 朝食をとる シユウカン をつける。 (ア 週刊) **イ** 週間 (ウ 習慣)

3 【古文の内容を読み取り、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題】 **レベル8～10**  
 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

仁和寺にある法師、年寄るまで、石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、あるとき **①** 思ひ立ちて、ただ一人、かちより詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。  
 さて、**②** かたへの人にあひて、「年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。聞きしにもすぎて、尊くこそ **③** おはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、なにごとかありけん、ゆかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず。」とぞ言ひける。  
 少しのことにも、先達は **④** あらまほしきことなり。(兼好法師『徒然草』第五十二段)

(1) 線部①「思ひ立ちて」②「かたへ」③「おはしけれ」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。  
 「はひふへほ」は、「わいうえお」に直せます。

- ① **おもいたちて**  
 ② **かたえ**  
 ③ **おわしけれ**

(2) 線部④「あらまほしき」の意味を次から一つ選び、記号に丸を付けなさい。  
 ア ありがたい **イ** あってほしい ウ わかってほしい エ あたらしい